PRESS RELEASE

独立行政法人国際協力機構
中部センター
2026 年 10 月 27 日

動物を守る国際協力

途上国で現地の人々と自然環境保護に取り組んだ

中部地域ゆかりの JICA 海外協力隊や専門家の写真展を開催

【写真左:ウガンダ野生動物教育センターで活動した JICA 海外協力隊員／写真提供：高橋 文彦】
【写真右:農地などへの転用のために燃やされたアマゾン熱帯雨林／写真提供：小此木 宏明 Project-MORI (JICA/IBAMA)】

JICA 中部が運営するなごや地球ひろばでは、写真展「いのちの声をきく」を開催いたします。是非ご来館いただき、ご取材・情報掲載のほどお願いいたします。

【取材可能期間：開催期間中（2026/10/28～2027/2/28)】

失われてしまうその前に

世界各地には、絶滅に瀕している野生動物が数多く存在します。危機の原因は、人間の活動による生息場所の環境破壊・汚染、密猟や、地球温暖化の影響など様々です。多様な命がこれ以上失われてしまう前に、世界中で自然環境の保全と回復が急がれています。
日本は、動物たちを守るだけでなく、地域の人々が自然や動物と共に生きる環境づくりに力を入れています。本写真展では、日本が積み重ねてきた知見をもとに、JICA が中部地域の人々と中南米やアフリカなどで進める取り組みを紹介します。（写真展示枚数：41 枚）
写真展では、世界各地で暮らす個性豊かな動物たちの佇まいと表情に出会うことができます。地球上にある壮大な自然が、自らは訪れることのない遠い世界と考えるのではなく、「そこに在る」と想像する機会になればうれしいです。そして、動物たちを愛おしむ気持ちを育みながら、私たち一人ひとりが自然との共生のあり方を日常で意識して過ごすことから始めませんか。

中部地域から世界へ

PRESS RELEASE

独立行政法人国際協力機構
中部センター
2026 年 10 月 27 日

【写真左：ボリビアの野生生物保護センターで、ペットとして違法に飼育・取引されていた動物や、病気やケガをした野生動物の保護活動を行う JICA 海外協力隊員／写真提供：山部 桂子】
【写真中央：学校法人中部大学は、絶滅危惧種「ヨウム」の保全を通じて、ウガンダで野生動物保全と地域経済の両立を目指すエコツーリズムの開発を行った／写真提供：中部大学】
【写真右：一般社団法人エコロジックは、ガボンのムカラバードゥドゥ国立公園で、エコツーリズム事業の仕組みづくりを行っている／写真提供：エコロジック】

SDGs 達成に向けた取り組みを知る

施設内の「体験ゾーン」では、SDGsと国際協力を学ぶ 基本展「SDGs―未来につながる17の約束―」を同時開催します。基本展では、世界の「今」とSDGsを達成するための世界やJICAの取り組みをご紹介しています。展示を見て、さわって、体験して、SDGs達成に向けて私たち一人ひとりにできることを考えることができます。
買物を通じた国際協力ができる「買物ゾーン」では、フェアトレード商品や、森林農法で育てられたコーヒーを販売しています。
「食のゾーン」では、特別写真展「LIFE この街は生きる音がする」を開催します。JICA中部なごや地球ひろばオフィシャルサポーター空木マイカ氏が今年8月にフィリピンを訪問。取材先で出会った人々やJICA海外協力隊等の姿をおさめた写真展です。

【展示概要】
展示期間：2026 年 10 月 28 日（水）～2027 年 2 月 28 日（日）入場無料　開館時間：10:00-18:00 休館日：月曜日（月曜日が祝日の場合は開館、翌平日が休館）、年末年始（12/28-1/4）、その他天候等の理由により臨時休館する場合があります。最新の情報はウェブサイトをご確認ください。 施設ウェブサイト：https://www.jica.go.jp/nagoya-hiroba/index.html **※学校等による展示見学と合わせた取材のご希望があればお知らせください。講師・学校等と調整を試みます。**
【本件に関する問い合わせ先】
JICA 中部　市民参加協力課　影山・後藤 TEL：052-533-0220（対応可能な時間：月―金　9 時 30 分～17 時 30 分）　e-mail：cbictpp@jica.go.jp